

各 位

平成30年9月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



フジバカマの花に止まり吸蜜する渡り蝶のアサギマダラたち

渡り蝶のアサギマダラ（タテハチョウ科）

9月になるとたくさんのアサギマダラが野草園のフジバカマの花にやってきます。アサギマダラは蔵王の山々で6月前後に生まれ、7月から8月に蛹化と羽化を行い、涼しい高地で生活します。秋になり南の方に移動するとき、その一部が野草園を通過していきます。アサギマダラの雄は成熟するためにフジバカマの蜜を吸う必要があります。雌を引きつけるフェロモンを作るために必要な物質が、その蜜の中に含まれているからです。ここで十分蜜を吸ったアサギマダラは、また次の蜜を求めて南への旅に出発します。そして長い旅を行い、冬には雪のない西日本などで産卵し一生を終えます。

野草園の「七草の庭」ではオミナエシやフジバカマ等の秋の七草の花が咲き誇り、渡り蝶のアサギマダラの写真を撮るカメラマンの姿が見られます。アサギマダラは美しいばかりでなく、人を恐れないので近づいても逃げず写真を撮り易いです。また林の中では白いブラシのようなサラシナショウマの花が咲き誇っています。そして、クリやコナラ、ナナカマドなどの樹木には、たくさんの果実が実って一層秋を感じさせます。9月の連休は「秋の野草園祭り」で、楽しいイベントを企画しています。子供達にはミニ新幹線や小馬に乗ってもらい、大人には餅の振る舞いなどで秋の味覚を楽しんでもらいます。

9月中旬から10月上旬のイベント予定

◆【野草園第25回写真コンテスト作品募集】 9/1（土）～9/21（金）

詳しくは野草園のホームページをご覧ください。

◆【東北南3県ポタニカルアート作品展】

- 日 時 9／2(日)～9／24(月) 9:00～16:30 ※9／16展示入替えあり、最終日
9／24は15:00まで
- 場 所 自然学習センター
- 内 容 山形県、宮城県、福島県のポタニカルアート教室に通うポタニカルアート愛好者の作品を展示し、来園者に鑑賞して頂く。

◆◆◆◆◆『秋の野草園祭り』9／15(土)～17(月・祝日)◆◆◆◆◆

期間中のイベントの参加費はすべて無料です。(入園料別)

◆【バルーンアートプレゼント】

- 日 時 9／15(土) 10:00～12:00、13:00～15:00 無くなり次第終了
- 場 所 自然学習センター前 中央広場

◆【餅の振る舞い】

- 日 時 9／15(土) 11:00～ 無くなり次第終了、なお当日9:00～整理券を配布します。
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 大曽根餅つき保存会による実演と体験餅つきの後、振る舞います。

◆【水風船プレゼント】

- 日 時 9／16(日)、17(月) 10:00～12:00、13:00～14:00 無くなり次第終了
- 場 所 自然学習センター前 中央広場

◆【木の実のオブジェ作り講座】

- 日 時 9／16(日) 13:00～15:00
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 内 容 野草園内の木の実を観察し、その後、木の実を使ったオブジェを作成します。
- 講 師 野草園職員
- 申込み 電話で野草園まで 先着15名 TEL 023-634-4120

◆【ミニ新幹線運行】

- 日 時 9／16(日)、17(月) 11:00～12:00、13:00～15:00
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 東北ライブsteamクラブ須貝健二氏により連続運行。*雨天中止

◆【山形まるごと市】

- 日 時 9／16(日)、17(月) 10:30～15:00
- 場 所 料金所の隣
- 内 容 西蔵王の特産物を販売します。

◆【乗馬体験】

- 日 時 9／17(月) 10:00～12:00、13:00～15:00
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 子供はポニー、大人はサラブレッドに乗って広場のコーナーを一回りします。毎回大人気です。各馬 先着100名(当日9:00～整理券配布) *雨天中止
- 協力: 山形馬事センター 関 智哉 氏。

◆【65歳以上 無料入園日】…9／17(月) 敬老の日の趣旨から、65歳以上の方は無料で入園できます。ご家族の方との来園をお待ちしています。

*尚、ガイドウォーキングと山野草販売、たべもの屋台は3日間とも行います。

◆【フリーズドライフラワー教室】

- 日 時 9/29(土) 10:00～12:00
○場 所 自然学習センター ピロティ
○講 師 フラワースクールピュア 多田葉津恵 氏
○内 容 長期間保存できるように加工した植物標本（ハーバリウム）のアレンジ
○対 象 先着20名 ○参加費 2,400円（入園料別）
○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【薬草と薬膳を楽しむ健康ウォーキング】

- 日 時 9/30(日) 10:00～12:30
○講 師 萬屋薬局薬剤師 山形済生病院健康増進センターめぐみ健康運動指導士
野草園植物案内ボランティア
○内 容 ウォーキングをしながら薬草等について専門家が解説、昼食は薬膳芋煮、
昼食後希望者に健康チェック
○主 催 萬屋薬局（共催 山形市野草園）
○対 象 健康ウォーキングの可能な方 先着50名
○参加費 1,300円（入園料、昼食代、保険料等込） ○持ち物 飲み物、歩きやすい服装
○申込み 電話で萬屋薬局まで TEL023-623-1805

◆【ハーブリース教室】

- 日 時 10/6(土) 10:00～12:00
○場 所 自然学習センター
○内 容 ユーカリなどを使ったリース作り、ハーブティーの試飲。
○講 師 ハーブライフ&ガーデン 佐竹文子 氏
○対 象 先着 15名 ○参加費 2,400円（入園料別）
○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【ガイドウォーキング】

- 日 時 9/15(土)、16(日)、17(月)、22(土)、23(日)、24(月)、
29(土)、30(日)、10/7(日)、8(月)
1回目 10:00～11:00、2回目 11:00～12:00、3回目 13:00～14:00、4回目 14:00～15:00
○内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見頃の花の場所に案内し、その花の説明もします。

◆◆◆野草園の9月後半に見られる主な花たち◆◆◆



オミナエシ(オミナエシ科)

日当たりのよい山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭くまた尖ります。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。果実は長楕円形でまわりは翼状にはなっていません。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。



フジバカマ (キク科)

本州の関東地方以西、四国、九州の土手などに自生する多年草です。奈良時代に中国から渡来したものと考えられているそうです。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があります。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっているそうです。



シュウメイギク (キンポウゲ科)

庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれているそうです。名は、秋に菊によく似た花をつけることによります。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の“ジャパニーズアネモネ”が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。



タイワンホトトギス (ユリ科)

沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ30～50 cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



カリガネソウ (クマツツラ科)

山地や林縁に生える草丈1 m程の多年草です。不快な臭いを出すので近くに行くだけで気づきます。花は下側の唇弁が大きく、4個の雄しべと雌しべは共に長く下向きに湾曲します。花の様子を冬の渡り鳥の雁（かり）の飛ぶ姿に例えたことが、花の名の由来です。



オケラ (キク科)

日当たりのよい乾いた草地に生える多年草です。花を囲む苞葉が魚の骨を並べたような形をしています。葉はかたく、縁にこまかな刺状の鋸歯があるのも特徴です。若芽のうちは綿毛を被っていてやわらかく食用にされます。根は胃の薬として使われるそうです。名は、古名のウケラの訛といわれています。



サラシナショウマ (キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落ちします。名は「晒菜升麻」で、若葉をゆでて水でさらして食べることによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻で解毒・解熱剤などに使われます。



ワレモコウ (バラ科)

山野に普通に生える多年草で、葉は互生し長柄があり、奇数羽状複葉です。小葉は5～13枚で長楕円形です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく4枚の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは4個で葯は黒く萼片より短いようです。名は紋所のもこウからきたものといわれています。



アケボノソウ (リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれします。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てつけられたようです。



ウメバチソウ (ニシキギ科)

山野の日当たりの良い湿地に生える多年草で、10～40cmの細い花茎を直立し、白色の5弁花を1個付けます。雄しべが5個、花粉を出さない仮雄しべ5個あり先が糸状に12～22裂しています。花茎に付く葉は柄がなく心形で花茎を抱いています。名の由来は、花の形が梅鉢の紋に似ているからです。



センニチコウ (ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、庭園に植えられていますが、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎を出し、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色、まれに淡紅色、または白色があります。名は花が長持ちするからです。



ゴマナ(キク科)

山野の日当たりの良い所に生える多年草です。草丈が1～1.5mで茎や葉に細毛があり、触るとざらつきます。茎の上部で散房状に枝を分け、白い小菊のような花を多数付けます。白い花弁は舌状花で中心の黄色いところは筒状花です。名前は葉が“胡麻”の葉に似ているところからきているようです。



タムラソウ(キク科)

山地の草原などに多い多年草で、葉は互生して羽状に深裂します。枝先にアザミに似た花をたくさんつけます。葉もアザミに似ていますが、刺はなく質もやわらかいようです。頭花は紅紫色で上向きにつき、総苞は鐘形で、花柱の先がふたつに割れて反り返る特徴があります。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒いそうです。秋の葉がない時に鱗茎から茎を1本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は6片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ6本と雌しべが長く出て花被と同色です。名は秋の彼岸頃に花が咲くからです。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の草地などに生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で、主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



リンドウ(リンドウ科)

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く葉は緑色で、縁は細突起があってややざらつきます。茎の頂きまたは上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。根茎と根を乾燥したものが漢方の竜胆で、煎じて健胃剤とします。名は竜胆に由来するそうです。